

の価値が等しいことが確信できるようになる。

二、科目に沿ってではなく、子どもの中に育てたいと考える理解や価値観や行為に即しての指導法についてのすべてを学習する。

三、子どもの遂行を最も効果的に行なわせるような、個人差、学校差、地域差に応じた種々のカリキュラムの目標に対する適切な経験と教材の可能な範囲を確実に把握する。

四、教師の成長には時間、精力、興味が必要である。教師は自己の成長のため絶えず投資を行なっていなければ、専門的地位を要求する権利はないし、学校側も教師の専門的進歩のために時間や援助や設備を与えなければ教師に対して専門的行為を期待する権利はない。

以上のような考えは一見実現不可能なようにみえるが、この考え方は全く新奇な

のではなく、むしろ本来的なものである。

実際には教師や学校経営者よりも自分の子どもの特権が奪われると考える父兄の抵抗もあるし、教育の革新を妨げる保守的な動きの数々があることも事実である。しかしながら、一部ではすでに、評価を行なわないう学校、教師によるカリキュラム委員会、合・不合のない継続カリキュラム、目標に合わせた異質集団による教育の実験などの形で革新が進められてもいるのである。

最後に、筆者はこれらの問題は、幼児教育から大学教育に至るまでの共通の問題であることを指摘し、教育革新に対しての連邦政府の財政的援助を期待し、この教育の再構成がアメリカ自身の再構成につながるものであると結んでいる。わが国におけるテスト中心主義、有名校への集中と試験地獄を想う時、われわれは筆者の説くところを深く考えねばならないのではないだろうか。

(O)

幼児の教育 第六十七巻 第十一号

十一月号 © 定価八〇円

昭和四十三年十月二十五日 印刷
昭和四十三年十一月一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一
印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします